

「生きる力」を育む

NPO リトル・クリエイターズによる児童養護施設での美術造形ワークショップのとりくみ

NPO リトル・クリエイターズ(以下、LC という。)は、厳しい生活環境の子どもたち、特に児童養護施設で暮らす子どもたちが、アート(音楽、舞台芸術、美術造形)のプログラムを通して、自分を表現し、人と出会い、交流する機会を提供することにより、見えない障害を乗り越え、社会で生きて行くための「夢」や「智慧」、「ちから」を育む手助けをしたいと願い、2008年より活動している。以降、美術造形プログラムは、国内外で不定期に開催しているが、2012年4月からは月1回、神奈川県にある児童養護施設にて継続してワークショップを行っている。LCのプログラムの目的は、「上手く作ること」や「技能の向上」ではなく、家庭環境などの要因から自由な自己表現が難しい状況におかれた子どもたちが、造形表現を通して、ひと時でもその厳しい環境から離れ自己表現を行える場を提供することである。ここでは、その5年間の取り組みと、そこから見えてきたことについて紹介したい。

LCの美術造形ワークショップには、施設で暮らす小学生約10名が参加している。その内容は牛乳パックを使った風車や帽子作り、段ボールを用いた凸版の版画作りなど、身近なものを利用して新たな造形を作るものである。ワークショップの進行に当たっては、学年も理解力も異なる子どもに大人(LCスタッフ)が、ほぼ一対一で子どもの発見や質問に寄り添い、助言しながら見守ることで、(通常^{かざぐるま}の家庭環境でみられるような)子どもたちが安心して大人に甘えられる場づくりを心がけている。

ワークショップを継続していくにつれ、子どもたちの態度に変化が見られるようになった。例えば、道具の独り占めをやめ、分け合ったり、使い方を教えあったりするようになった。新入生が入る4月には、必ず絵具、筆などの各種道具の使い方と共に、色の三原色からの色の作り方を指導しているが、回を重ねるごとに複雑な色をたくさん作れるようになるだけでなく、前の回で行った表現技法を「応用」し別の作品制作に取り入れるなど、自発的に独創的な表現ができるようになってきた。また、時折、大きな模造紙に全員で一つの絵を描くなど全員での共同作品を制作することで、話し合いをし、折り合いをつけまとめていくことを学ぶと同時に、他者が加わった時にできることへ想像力を働かせられるようになった。さらに、集中力の向上や、制作した作品をお互いに鑑賞し、感想を述べることも少しずつできるようになってきている。このような変化や応用力は、「芸術表現活動」を通じて育まれたものであるといえるだろう。

LCで行っているワークショップは非常にささやかな取り組みではあるが、この経験が、厳しい環境に置かれた子どもたちの「生きる力」の醸成を促す一助となるよう、今後も活動を続けていきたい。